## Profile
自己紹介

はなだ かずな
### 花田 和奈 さん

From 東京都 Iターン

**仕事内容**
フォトグラファー／
コミュニティ運営／コーチング

**年代**
30代

**出身**
京都府

**現住所**
大津市

大学卒業を機に京都から上京し、カメラマンとして働いていた花田さん。
思いがけないきっかけから滋賀へ来る機会が増え、次第にこの地に魅了され、2020年に移住して来られました。「滋賀を拠点にしながらも、旅をしながら働いていきたい」と話す花田さんにとって、滋賀県はどういう場所に感じているのか、お話を伺いました。

# 滋賀県民は気さくな人が多い。
# フリーランスの人でも
# 孤独を感じることはありませんよ。

**ご職業と簡単な経歴を教えていただけますか。**

フォトグラファーとコミュニティマネージャーを軸にフリーランスで活動しています。フォトグラファー歴は七年ほどです。

大学時代に初めてカメラを持って、美大生の友達の作品を撮ったりしているうちに、「クリエイターとして働きたい！」という思いが湧いてきました。その時は趣味程度の力量だったのですが、「勉強しよう」と思って、大学最後の年に思い切ってフォトグラファーの専門学校に入ったんですね。一年間専門学校に通いながら就活をしていたら、東京のあるスタジオで就職が決まったので、新卒からはずっと東京で働いていました。

**そこからどういう経緯で滋賀に移住されることになったのですか？**

新卒で入った会社はカメラマンの登竜門のような会社だったので、そこでスタジオアシスタントとして一年間修行をしました。その後、アパレル会社などの専属カメラマンとして働いていたのですが、その頃から海外に行ったり、旅をしながら仕事をするスタイルになってきていたので、「このまま東京に住んでいる意味があるのかな」と思い始めていたんです。もし移り住むなら生まれ故郷の関西の方がいいなと考えていた矢先、コロナ禍で東京にいるメリットが更に下がってきたんですね。

あとは、私が東京にいる間に両親が滋賀県に引っ越していたんです。しかも、私の知らない間に（笑）。それで、お盆やお正月の時に滋賀に帰る機会ができて、だんだんと「滋賀の自然環境ってすごくいいな」と思うようになりました。そうこうしているうちに、仕事のキリが良いタイミングがきたので、思い切って滋賀に移住して来ました。

**東京から滋賀へ移り住むにあたってお仕事・収入面の不安はありませんでしたか？**

コロナ禍ということもあって不安が無かったというと嘘になるのですが、滋賀での繋がりもあったので、ありがたいことにいろいろとお仕事をいただいています。むしろ東京よりも地方の方が人手が足りていないなと感じますね。県内だけじゃなくて京都・大阪でも仕事を取れると思いますし、収入面としては東京にいる時とあまり変わらないです。

私としては、滋賀での仕事の方が企業やキーマンの方との距離感が近く、人間味ある仕事が出来るという点でやりがいも感じられるので、メリットが大きいと思っています。距離感が近いと結果的に長いお付き合いになるので、利益的な面でも東京での仕事とそれほど大差は無いと感じています。

**最後にこれから移住を考える人へアドバイスをお願いします。**

滋賀県民は、外の方と積極的に交流したいという方が多いイメージなので、フリーランスの人でも孤独を感じるようなことは無いですよと言いたいですね。コワーキングスペースやカフェで仕事しているときも、案外皆さんの方から話しかけてくれるなと思います。フリーランスが地方でお仕事をするというと、なかなか怖いイメージがあるなと思っていたのですが、真摯に向き合ったらきちっとお仕事は来ますし、その怖さは幻想でした。

## Questionnaire
花田さんに、聞いてみた！移住アンケート

**01 ワークライフバランスの変化**
- Private　移住前 40％ → 50％
- Work　移住前 60％ → 50％

**02 移住環境の満足度**
70％

**03 所有している車の数**
1台

**04 仕事の満足度**
50％

**05 プライベートの満足度**
80％

## Schedule
ある一日

- 7：00 起床
  朝日を浴びる、植物に水やり、朝食。
- 8：30
  前日の日記を書く、1日のスケジュールやメール確認。
- 9：00 仕事
  オンラインミーティングや写真編集など。
- 12：00 昼食
  自宅 or 外食（午前撮影がある時）。
- 13：00 仕事
  ミーティングや午後から撮影。
- 18：00 夕飯
  必ず家族みんなで食卓を囲む。
- 20：00 仕事
  オンラインイベントの運営や写真の編集などを引き続き行う or 勉強。
- 24：00 就寝

## Favorite
滋賀じゃないとできないこと

休日の朝にコーヒーを飲みながら湖畔に足をつけてアーシング（裸足や素肌で大地などの自然に直接触れる）すること。
湧き水が汲めること。

## Profile
自己紹介

### 佐野（さの） 誠二（せいじ） さん

From 大阪府 Iターン

仕事内容
カメラマン / 採用支援 / ホームページ制作

年　代
40 代

出　身
大阪府高槻市

現 住 所
高島市

幼い頃、山・川・田畑に囲まれるエリアで育った佐野さんは、「家族と自然の中で暮らす」という理想の生活を実現すべく、2020 年 8 月に家族で高島市へ移住されました。フリーランスとして新たなスタートを切った佐野さんは「魅力溢れる高島や滋賀のことをもっとたくさんの人に伝えたい！」という熱い思いの持ち主でした。

## Schedule
ある一日

- 7：30　起床
  家族から遅れて起床。
- 8：00　仕事
  妻と子供を見送り、ランニング。
  その後、自宅で仕事開始。
- 12：00　昼食
  自宅で昼食。
- 16：30　コミュニケーション
  妻と子供が帰宅。
  こどもと庭で野球の練習。
- 18：30　夕飯
  家族みんなで夕食。
- 20：00　お風呂
  こどもとお風呂。
- 21：30　仕事再開
  家族と一旦寝室へ行き、その後仕事再開。
- 25：00　就寝

# あこがれの場所に移住してきて、毎日家族で食卓を囲むことができて幸せです。

**簡単な経歴を教えていただけますか。**

地元は大阪府高槻市です。高槻に住んでいた時に人材採用の会社に入社し、十二年ほど勤めていたのですが、最後の二年半は転勤になり東京で働いていました。

実は、転勤が決まる前から移住を考え始めていて、最初は転職先を探していたんです。ただ、自分はサラリーマンに向いていないなと思っていたのと、会社勤めだと思い描く生活が実現できそうになかったので、「独立しよう」と思って準備をしていました。そんな中、田舎とは真逆の東京への転勤の話をもらったんですね。それで「三年頑張ってオリンピックを見てから移住・独立ができたらいいか」と考えていたのですが、三年経たずしてコロナ禍になり、仕事も休業になってしまったので、そのタイミングで移住してきました。

**移住のことをご家族に相談したとき、反応はどんな感じでしたか？**

五、六年前に「移住したい」と言い出したとき、妻は「いや、無理でしょ」というリアクションでした。とはいえ、自然の中で暮らすということには共鳴してくれている感じだったので、まずは自分で考えて一生懸命勉強したり準備をしていました。

前職では社内でトップ営業マンになったり、新規事業を立ち上げたり、段々とマネジメント的な事も任せてもらえるようになったので、そういう姿を見て、移住や独立に理解を示してくれたのかなと思います。

**移住先はどのように決められましたか？**

父親の実家が大津市の唐崎駅の近くだったのですが、子供の頃に父に連れられて湖西で釣りやキャンプをしたり、琵琶湖で遊んだりしていたんです。そういう原体験があったので、滋賀県の湖西の地域には馴染みがあったんですね。最終的には、高島なら地元高槻に近くて両親にも会いやすい距離だという点が決め手になりましたね。

**今の生活になって良かったことは何ですか？**

毎日家族と一緒に晩ご飯を食べられることです。東京で働いていた際は仕事が忙しく、住まいが埼玉だったこともあり、帰宅するのが真夜中を過ぎることも多かったんですよ。家族との時間を優先できるのが、何より僕が一番願っていたことなんです。

あとは、高槻に住んでいた時に月一くらいで登っていた大好きな山が、家の庭から見えているんですよ。当時、あの山の上から「こんなところに住みたいな」と思っていたのがまさにこの場所で、実際に今住めているんです！

**この地で実現していきたいことはありますか？**

自分で移住体験ツアーをやりたいと思っています。僕は会社を辞めて独立して移住してきましたが、そうではなくて「転職で来たい」という人も多いと思うんですね。人材採用の仕事の経験も活かして、地域の企業さんの求人を紹介できるような仕組みや場所は作りたいと思っています。「移住したいな」「思い切って高島で何かをやりたいな」と思っている人には、僕が知っていることは全部提供したいと思っています。

## Questionnaire
佐野さんに、聞いてみた！移住アンケート

**01 ワークライフバランスの変化**

Private　移住前 20 % → 90 %

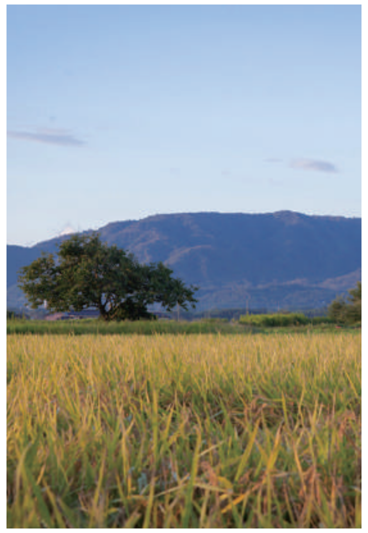
Work　移住前 80 % → 10 %

**02 移住環境の満足度**　95 %

**03 所有している車の数**　2 台

**04 仕事の満足度**　80 %

**05 プライベートの満足度**　70 %




## Favorite
滋賀じゃないとできないこと

琵琶湖がとても美しくて心癒される。
高島は水も空気も琵琶湖も本当にきれいで、庭に出るだけでも心がスーッとなる。
登山が大好きで、移住前から湖西の山に頻繁に登っていた。その山々が庭から見える幸せ。

# クリエイティブの力で、滋賀や地方のモノづくりを底上げしたいと思っています。

**ご職業と簡単な経歴を教えていただけますか。**

ブランディングディレクターとして、主にブランドの立ち上げなどに関わるお仕事をしています。

十八歳の時に大阪のファッションデザインの専門学校に進学したのですが、在学中にインターンシップの関係で東京校に転籍し、それがきっかけで上京しました。ありがたいことにインターン先のアパレル企業からオファーをいただいたので、卒業後はその会社にデザイナーとして入社しました。

その後数社で働きましたが、年齢や経験とともに組織の中で働くことに面白味を感じなくなったんですね。そして、「自分の力でもっとシンプルに働きたい」という思いもあり、三十一歳の頃に会社を辞めて独立しました。いろいろなご縁もあって、独立を機に自身でブランドを立ち上げたのですが、それ以前から滋賀に帰ることは考えていたんですね。それで、五年ほどブランドの運営をして事業譲渡し、二〇二一年に地元に戻ってきました。都内には通算で十六年ほど住んでいましたね。

**滋賀に帰るきっかけになった出来事はありましたか？**

八年ほど前に母親が他界したことが、Uターンを考える大きなきっかけになりました。私は一人っ子なので、いずれ実家をどうにかしなければと思っていたんですね。そういった理由もあって、場所を選ばずパソコン一つで仕事をするイメージをずっと持っていて、それを周りにも言っていました。そのうち、仕事に関しては自分のやりたい形に寄せてこれたので、あとは住環境だけだなと思ったんです。ちょうどブランド自体も事業拡大のタイミングでしたが、私自身は「運営を続けたい」というよりも、「もっと働き方を変えたい」と思っていたので、「環境が良くて、心穏やかに無理せず好きなことができる場所に行こう」と思い、滋賀に帰ってきました。

**昔と変わったと感じる所はありますか？**

良い方向に大きく変わっているように感じます。田んぼの中に突然古民家が出てくるみたいな感じで、おしゃれで個性的なカフェもありますよね。一つ一つの距離が遠いというのはありますが、田舎ならではの良さと新しいエネルギーとが相まって、素敵な場所がたくさんできていると思います。

**ご自身で運営されている地方の魅力を発信するメディア「alil zine（アリルジン）」は、どんな思いで始められたのですか？**

とにかく地方が好きなんですよ。地方には、職人さんが作るすごく良いものがあるのに、それを上手くPRできていないということがよくあると思うんですね。それをクリエイティブの力で何とかしたいと感じています。もちろん、広まりすぎるとビジネスライクになってしまうので、広まらない良さもあるのですが、守るためにはある程度広めないといけない。そういうものに対して、自分の今までやってきた経験やフィルターを活かして滋賀のモノづくりや、将来的には地方のモノづくりを底上げしたいと思っているんです。私自身もalil zine（アリルジン）を通してインプット・アウトプットをしていって、地方の埋もれているプロダクトや活動、フードロスといった社会問題などを共有できるプラットフォームになれば良いなと思っています。

## Questionnaire

山﨑さんに、聞いてみた！移住アンケート

**01 ワークライフバランスの変化**

Private　移住前 30％ → 70％

Work　移住前 70％ → 30％

**02 移住環境の満足度**

90％

**03 所有している車の数**

1台

**04 仕事の満足度**

60％

**05 プライベートの満足度**

100％

## Profile

自己紹介

山﨑 藍未（やまさき あいみ） さん

From 東京都　Uターン

仕事内容
ブランディングディレクター／デザイナー

年　代
30代

出　身
滋賀県愛荘町

現住所
愛荘町

服飾学校在籍時に上京し、アパレル業界というクリエイティブな世界でデザイナーとしての研鑽を積んできた山﨑さん。慣れ親しんだ地元滋賀に戻ってくるために、仕事の環境を整え、2021年に満を持して帰ってこられました。地方が大好きだという山﨑さんは、自身が運営するメディアを通して「地方の良いところを見つけ出して守りたい」と語っておられました。

## Schedule

ある一日

**7：30　起床**
白湯を飲みながら瞑想やストレッチ。

**8：30　仕事＆家事**
メール等の返信・諸連絡 & 単純作業のみの仕事。合間に家事。

**10：30　オンライン打ち合わせ**

**11：30　昼食**
昼食づくりと夜ご飯の準備。

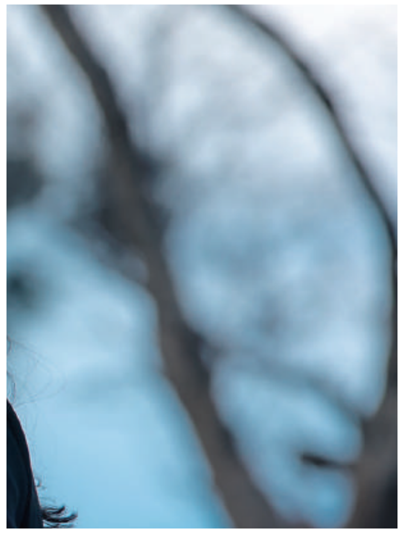
**13：00　外出**
気になっていたスポットへ。

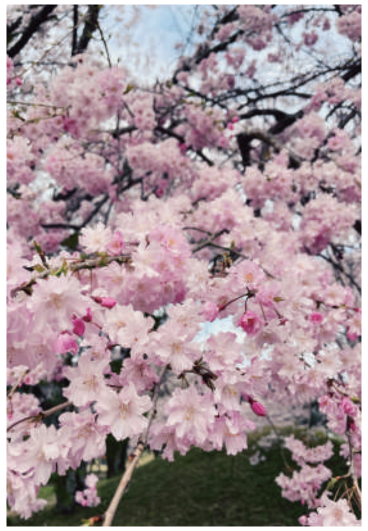
**17：00　帰宅＆仕事**
帰宅して、仕事再開。

**19：00　夕食**
父と夕食を食べる。

**20：00　オンライン打ち合わせ**

**24：30　就寝**





## Favorite

滋賀じゃないとできないこと

四季を感じられるところと、湖岸をドライブできるところ。あと、地場野菜やお米・お酒など、地元の食が堪能できるところが最高です。

## Profile
自己紹介

### 柴田 達也（しばた たつや） さん

From 京都府 Uターン

仕事内容
農業のアルバイト／
ジムのトレーナー

年　代
20代

出　身
滋賀県

現住所
東近江市

“地元永源寺に帰ってきて農業をやる”ということが高校時代からの夢だった柴田さん。学生時代に打ち込んだ野球で完全燃焼し、今は農業へ一直線だといいます。「農業で成功して滋賀から出ていった友達を地元に迎えたい。」
そう、まっすぐに語る柴田さんの地元愛を通して、滋賀・永源寺の魅力に迫ります。

## Schedule
ある一日

- **7：00 起床**
- **7：30 出勤** ミーティング前に仕事の先輩方とおしゃべり。
- **8：00 仕事** 作業開始。桑の収穫。
- **12：00 昼食** 家が近いので一旦家に帰って親に作ってもらった昼飯を食べる。
- **13：00 仕事** 引き続き桑の収穫。
- **15：00 仕事** モリンガ（ワサビノキ）の加工。
- **17：00 仕事終了**
- **19：00 夕食**
- **23：00 就寝** コーヒーを飲み終わって就寝。



# 自然が豊かで人が良い。そんな地元で農業をやりたかったんです。

**簡単な経歴を教えていただけますか。**

東近江市、旧永源寺町の出身です。小学生から大学生まで野球をやっていまして、大学では京都に住みながら四年間野球に打ち込んでいました。大学でレベルの高い野球に触れて、野球をやることに達成感を感じたこと、そして高校卒業時からの夢が『地元に帰ってきて農業をやる』ことだったので、まずは資金を貯めようと思い、滋賀に帰って就職しました。新卒から車のディーラーで働いていましたが、地元の人と喋っているうちに「早く永源寺で農業がしたい！」と思い、予定を前倒しして前職を退職し、今は農業のアルバイトをしています。

これから農業大学校に通って、そこを卒業したら独立して自分で農業をやりたいと思っています。

**どういったきっかけから農業を志されたのですか？**

高校から大学へ入学する頃に、たまたま農業の記事やテレビを見たのですが、最初は単純に「儲かりそうだな」と思ったんですよ（笑）。ただ実際は、職人的な一面や天候に左右される部分、そして営業も必要ということとても難しい仕事だと気づいて。いろいろと調べていくうちに、そんな農業に対して挑戦したいという気持ちに変わっていったんですね。それで、自分の挑戦に適したところはどこだろうと考えたときに、やはり生まれ故郷である永源寺の環境が一番だと思って、地元で農業をやろうと決意しました。

**大学を出て「そのまま都会に住みたい、働きたい」という気持ちはありませんでしたか？**

最初は都会で働くことも考えて就活をしていましたが、やはり滋賀に戻って来たいという気持ちが大きくなりました。大学4年間で京都に出てみて、自分としてはどちらも違和感なく住めたんですね。でもやはり落ち着くのはこの永源寺という町で。都会に行くのは休日に遊びに行くくらいで満足かなと思ったんです。

**休日はどこに遊びに行かれますか？**

湖岸緑地は良く遊びに行きます。夜に行ってテントを張って、対岸の夜景を眺めながらおつまみを食べたり、コーヒーを飲んで帰るみたいな感じでゆったり過ごしますね。夏は長浜や高島の水のきれいな地域に行ってSUPをしたりします。あとは滋賀県外もよく行きますよ。永源寺からだと名古屋方面のアクセスが良いので、車で気軽に県外へ遊びに行きますね。車移動が基本なのは気を付けないといけないですが、都会へのアクセスが良くて利便性が高いという点でも、滋賀はとても良い場所だと思います。

**滋賀や永源寺の魅力を教えてください。**

自然が豊かで人が良くて、何でもある町ですね。

例えば、都会にいると何も考えなくても遊ぶ場所やものなどが揃うと思うのですが、田舎だと頑張って考えないと遊びが出てこないんですよ。でも、その遊びが田舎ならではで特別面白かったりするので、そういうところが好きですね。

あとは、地元だと通りすがりで出会った小学生などに「おかえり」「ただいま」と挨拶する文化があるんですね。そういう人の温かさに触れる機会がたくさんありますし、みんなで協力して生きているというような感覚があります。

## Questionnaire
柴田さんに、聞いてみた！移住アンケート

**01 ワークライフバランスの変化**
- Private：移住前 20％ → 40％
- Work：移住前 80％ → 60％

**02 移住環境の満足度**
100％

**03 所有している車の数**
1台

**04 仕事の満足度**
100％

**05 プライベートの満足度**
100％

## Favorite
滋賀じゃないとできないこと

琵琶湖があるので、湖岸でテントを張って、ゆっくりご飯を食べたりキャンプしたりすること。夜になると対岸の夜景が特に綺麗。

# Profile
自己紹介

ふなざき さくら
## 船崎 桜 さん

From 東京都 Iターン

仕事内容
長浜市地域おこし協力隊

年　代
30代

出　身
埼玉県

現住所
長浜市

20代は大手新聞社の記者として国会や政治家の取材をしたり、IT業界で広報を担当していたという船崎さん。様々な業界を経験・見聞した中で、次の人生は滋賀県長浜市の地域おこし協力隊として活動することを決意し、移住して来られました。長浜に移住しようと思った心境の変化やきっかけ、旧伊香郡の古民家での暮らしについてなど、じっくりと語っていただきました。

# Schedule
ある一日

- 7：30　起床
  5時起きが当たり前のご近所さんに比べると、かなり朝寝坊。
- 7：45　朝食
  トーストと目玉焼き。頂き物や手作りのジャムと一緒に。
- 9：00　仕事
  仕事スタート。取材やミーティングのための移動も多い。
- 12：00　昼食
  自宅で仕事の時は夫が作る昼食を食べる。
- 15：00　ご近所交流
  仕事の合間にご近所さんにお裾分けに行ったり、もらったり。
- 19：00　夕食
  旬の野菜たっぷりの和食が多い。
- 23：00　就寝
  虫の声や風、川の音を聞きながら布団に入る。

# 滋賀は自然のバリエーションが豊か。なおかつ自然と町が近いので、魅力的だなと思います。

**長浜に移住してこられるまでの簡単な経歴を教えていただけますか。**

埼玉県の本庄市出身で今三十歳です。東京の大学を出て、新聞社に入社したのですが、一年目の勤務地が滋賀県大津市でした。その後、宮城、東京と転勤し、計六年間記者として働いた後、ITベンチャー企業に転職し、広報を担当しました。その会社は一年半くらい勤めたのですが、東京から出るのもアリだなと思って少し進路に悩んでいたんですね。そんな時に、長浜に移住していた新聞社時代の先輩から「すごく良いところだよ」と声をかけてもらったんです。それがきっかけで実際に何度か見に来たのですが、私自身も「長浜ってすごく良いところだな」と思って移住してきました。

**様々な業界を経てこられましたが、どんな心境の変化がありましたか？**

まず、記者時代に一番面白いと感じたのは地方にいた時でした。最後の一年間は厚労省の担当だったので、官僚の方とお話ししたり首相官邸で政治家を追いかけるような取材も経験したんですよ。でもやはり、地方で町の人にお話を聞いたり、面白い話を探して書く方が自分としては好きだなと思ったんです。

その後働いたITベンチャーでは、広告システムやマーケティングのことを通して、ビジネスの世界について知ることができましたが、これからの人生を考えたとき、「東京で会社勤めする」暮らしにこだわらなくてもいいのではないか、という気持ちになりました。そんなタイミングで先輩から誘ってもらいました。

**地域おこし協力隊では、どんなお仕事をされていますか？**

長浜市の場合は、募集の段階である程度のミッションが決まっていて、それに対してプレゼンなどをして協力隊に入らせていただきました。私の活動目的は、『移住・定住人口を増やす』ということなので、自分で街の方に取材などをしています。具体的には、市役所が作る移住パンフレットの取材だったり、新聞関連誌の田舎暮らし紹介のコーナーで記事を書いたりしています。

あとは、長浜に移住してきた女性八人で協力して「サバイブユートピア」という雑誌を発行することを予定していますね。（二〇二一年三月発売予定）

**移住してよかった事は何でしょうか？**

「朝は鳥の声で目覚めて、まずきれいな川を見て、いい空気を吸う」という生活が当たり前になったのはすごく良いですね。毎日キャンプ場にいるような感覚です。少し歩けば立派な木がたくさん生えていて、紅葉が綺麗だったりお花が咲いていたりして、こういう環境に来ることができたのは本当に良かったです。

何より滋賀県は、山と川と湖が揃っていて自然のバリエーションが豊かで、なおかつ自然と町が近いので、魅力的だなと思います。

**これから移住を考える人へのアドバイスをお願いします。**

興味のある町があれば、ぜひ現地の方にいろいろな所に連れて行ってもらってください。そうすれば、「こういう集落があるんだ」「こんな山の中にもすごいところがあるんだ」などと、その町をより深く知ることが出来ると思います。

そういった中で自分が住む家や拠点にする場所を決めていくのが大事かなと思います。

# Questionnaire
船崎さんに、聞いてみた！移住アンケート

**01 ワークライフバランスの変化**

| | 移住前 | | 移住後 |
|---|---|---|---|
| Private | 20％ | → | 50％ |
| Work | 80％ | → | 50％ |

**02 移住環境の満足度**
90％

**03 所有している車の数**
2台

**04 仕事の満足度**
90％

**05 プライベートの満足度**
100％

# Favorite
滋賀じゃないとできないこと

琵琶湖、余呉湖を眺めてのんびり過ごすこと。伊香式古民家と豊かな自然の中で暮らすこと。
ご近所さんとのお裾分け交流。
山、川、湖を１日のうちに楽しむこと。